

JACLaP WIRE No. 96 (2006年7月20日発行)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No. 96 です。

\*\*\*\*\*

===== <<目次>> =====

【事務局からお知らせ】 会員動向 (2006年7月6日現在数 691名, 専門医 505名)

【WHO トピックス】 病気の四分の一は悪化した環境暴露で発生

(Press June 2006 WHO-198)

【M. A. N (Medical Academy News)】

■MAN 6月 1日号

■MAN 6月 11日号

■MAN 6月 21日号

===== <<JACLaP WIRE>> =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向 (2006年7月6日現在数 691名、 専門医 505名)

【新入会員】

小山徹也 先生：獨協医科大学 病理学 (兼病理部)

【所属・その他変更】

上田國寛 先生：旧 京都大学 名誉教授 京都大学化学研究所 教授

新 京都大学 名誉教授 神戸常盤短期大学 学長

村上俊一 先生：旧 国立精神・神経センター国府台病院 臨床検査部

新 獨協医科大学越谷病院病理部 特任教授

高木潤子 先生：旧 愛知医科大学 臨床検査医学講座

新 愛知医科大学 内科学講座内分泌・代謝・糖尿病内科助教授

盛田俊介 先生：旧 東邦大学大森医療センター 臨床検査医学

新 東邦大学医学部 臨床検査医学研究室 教授

東邦大学大森医療センター 教授、副院長

木下喜光 先生：旧 特定医療法人・特別医療法人生長会 愛風病院 内科

新 大阪市立北市民病院 内科

安東由喜雄先生：旧 熊本大学医学薬学研究部病態情報解析学 講師

新 熊本大学医学薬学研究部病態情報解析学 教授

【振興会退会会員】

オリンパス株式会社

【振興会セミナーのお知らせ】

第 24 回日本臨床検査専門医会振興会セミナーが以下の要領で行われます。多数の会員の皆様方のご参加をお待ちいたします。

開催日時：平成 18 年 7 月 21 日(金) 14:00～17:00

会 場：「東京ガーデンパレス」文京区湯島 1-7-5 電話 03-3813-6211

会 費：4,000 円（情報交換会参加費も含む）

主 題 名：「平成 18 年度診療報酬改定」

1. 機器・試薬メーカーの立場から  
松尾久昭 先生（デイドベリング株式会社 ヘルスケアソリューション G）
2. 病院検査部での問題点と対応  
米山彰子 先生（虎の門病院臨床検体検査部部长）
3. 日本臨床検査医学会の立場から  
渡辺清明 先生（日本臨床検査医学会理事長）
4. 診療報酬改定のポイントと考え方について \_臨床検査の視点を中心に\_  
福田祐典 先生（厚生労働省保険局医療課企画官）

情報交換会：17:30～19:00(会場は同じく東京ガーデンパレス)

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなっており、定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。勤務先（所属）、住所、名称の変更および E-mail address の変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

【今年度会費振り込みのお願い】

本年度もすでに半年が経過いたしました。まだ今年度会費を振り込まれていない先生は、すでにお届けしてある郵便振り込み用紙を用いて振り込みをお願いいたします。なお、振り込み用紙をなくされた先生は、

郵便振り込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局 までお願いいたします。

また、ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

---

===== << JACLAP WIRE >> =====

【WHO トピックス】 病気の四分の一は悪化した環境暴露で発生

(Press June 2006 WHO-198)

WHO は、一年間の死亡者の 24% が悪化した環境暴露により発生し、防御対策を行えば予防できると報告した。環境が破壊されて起こる 4 大疾患は、下痢症、下部呼吸器感染症、予想外の外傷、マラリアである。悪化した環境暴露を防御することで年間 400 万人の子供の命と年間 1300 万人以上の死亡者を救済できると予測している。これらの死亡者の約三分の一は最貧民の国民である。小児の二大疾患であるマラリアの年間死亡者数は 1900 万人(全症例の 42%)で、水資源の不完全な管理と感染源である蚊の不完全な撲滅が原因である。下痢症は年間死亡者数は 5800 万人(全症例の 94%)で、不衛生な給水と劣悪な環境で起こるので、悪化した環境を改善することにより防止できる。下部呼吸器感染症の年間死亡者数は 3700 万人(全症例の 41%)で、室内・屋外の空気汚染で起こる。予想外の外傷の年間死亡者数は 2100 万人(全症例の 44%)で、工場での事故が原因で起こる。道路上で起こった交通事故の年間死亡者数は 1500 万人(全症例の 40%)で、交通システムのデザインミスや環境上の欠陥が原因である。慢性閉塞性肺疾患の年間死亡者数は 1200 万人(全症例の 42%)で、これは汚染した仕事場の粉塵や排気ガスが原因であり、新生児疾患の年間死亡者数は 1100 万人(全症例の 11%)で悪化した環境暴露により起こる。WHO では、これらの病気は劣悪な生活環境を改善することにより防止できると述べている。

(十文字学園女子大学教授 森 三樹雄)

===== << JACLAP WIRE >> =====

■MAN 6 月 1 日号

○第 55 回日本医学検査学会の話題

定期総会 『人材育成派遣を事業の中心に』

日本臨床衛生検査技師会(会長小崎繁昭氏)の平成 18 年度第 1 回定期総会が 5 月 18 日、松江市の島根県民会館で開かれ、昨年度の事業経過が報告された。総会であいさつした小崎会長は、4 月に行われた診療報酬改定について、「評価された部分はあったが、決して満足できるものではなかった」とし、次回の改定に向け、より早期の段階での対応が必要との考えを示した。

今回の改定では、検体検査実施料が引き下げられたなか、外来迅速検体検査加算(1 点)、輸血管理料 I (200 点)、II (70 点)が新設されたことに加え、病理診断料が 225 点から 410 点に大幅に増点されるなど、医療の質や安全性にかかわる検査が徐々に評価されつつあることをうかがわせた。

また、総会では臨床検査技師の雇用促進と職能の向上を図るため、人財育成派遣に関する委員会を立ち上げ、「提言書」をまとめたことが報告された。高田鉄也専務理事は、「人財育成派遣は今後の日臨技事業において中心的な役割を担うと思っている」とし、会員に提言書の周知を求めた。

#### ○第55回日本医学検査学会の話題

##### シンポジウム 《Medical Technologist の育成を》

「臨床検査技師の卒前・卒後教育」をテーマにしたシンポジウムで工藤芳子氏（岡山理科大学理学部臨床生命科学科）は、わが国の臨床検査技師は“テクニシャン”ではなく“Medical Technologist”として育成するべきで、そのためには日臨技などが行う技師同士が認定する教育技師制度ではなく、国際社会が認める4年制大学を卒業した「学士」を備えた人材が必要だとの考えを示した。

厚生労働省が規定する日本の臨床検査技師の英訳は「Clinical Laboratory Technician」でテクニシャンに過ぎず、日臨技で「Medical Technologist」を使用しているだけにとどまっている。工藤氏は「国が認める（臨床検査技師の）免許はテクニシャンであることを今一度認識して欲しい」と強調した。

#### ○第55回日本医学検査学会の話題

##### 【臨床検査相談で患者満足度アップ】

学会では、臨床検査相談室を2004年9月から開設している山口県立総合医療センターの取り組みを三輪久美子氏が紹介、相談室開設後、患者満足度が向上しており、患者に配慮した医療を行っているという。

患者が相談室に求めてくるのは[1]主治医に聞きにくいこと、[2]悩みを聞いて欲しい、[3]結果説明を詳しく聞きたい、[4]検査結果が欲しい、[5]他院患者さんからの質問——などだ。

ほとんどの患者は結果の説明や時系列データを得て納得されるとする三輪氏。「担当者としても患者さんの悩み・疑問点を知ること、逆に教えられることも多い」と振り返る。「患者さんの満足度を高めるために、さらに内容を深め臨床支援をしていきたい」としている。

#### ○体外診断用で国内初、TaqMan プローブ用いた PCR 法試薬を発売

ロシュ・ダイアグノスティックス

ロシュ・ダイアグノスティックス（RDKK）は5月17日から結核菌の体外診断用医薬品として、国内初のTaqManプローブ（次世代遺伝子検査技術）を用いたリアルタイムPCR法の試薬キット「コバス TaqManMTB」を新発売した。既存製品「コバス アンプレリア コア マイコバクテリウム」など2品目の後継品。

## ■MAN 6月11日号

### ○小児にもメタボリック症候群が存在

第49回日本糖尿病学会年次学術集会 《地域学童健診の追跡調査で明らかに》

小児にもメタボリック症候群が存在することが、地域学童健診の追跡調査で明らかになり、5月25～27の3日間、東京有楽町の東京国際フォーラムで開かれた第49回日本糖尿病学会年次学術集会で、西村理明氏（東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科）から報告された。追跡調査では、小学4年生男女の約半数、中学1年生男児の約9割が肥満症に当てはまるとの衝撃的な結果も得られており、小児の早い段階から生活習慣病ハイリスク群を見つけ出す取り組みが、ますます重要になってきそうだ。

西村氏らは99年の小学4年生311人、00年の291人に関し、肥満、アディポネクチン・レプチン、生活習慣病の指標の3年間における推移から、肥満の予知因子を検討した。小学4年生と中学1年生のときの状態により、[1]非肥満（やせ）→非肥満、[2]非肥満→肥満、[3]肥満→非肥満、[4]肥満→肥満—の4群に分け、肥満の推移を見たところ、80%は非肥満のまま、10%が肥満のまま推移した。非肥満から肥満に増悪した生徒は2%、逆に肥満から非肥満に改善した生徒は7%との結果であった。

西村氏は、「小学校に入学したときから健診を始めるべきではないか。糖尿病発症の根は、おそらく思春期ぐらいから始まっていると思われるので、その段階でいかに早く芽を摘めるかを考えていく必要がある」と課題を指摘した。

### ○8月に都内で第1回教育学会を開催

日本臨床検査学教育協議会 《夏期研修会を発展的に解消し》

日本臨床検査学教育協議会（理事長三村邦裕氏）の平成18年度第1回定時総会が5月22日に都内で開かれた。総会であいさつした三村理事長は、1月11日に法人化が認められたことについて、「これもひとえに会員校の先生方の協力によるもの」と感謝の意を述べた。また、協議会が年1回行っていた夏期研修会を発展的に解消し、第1回日本臨床検査学教育学会を8月23日から都内で開催することになった。記念すべき第1回目の学会長を務める三村理事長は、「開催日が迫っており、準備が慌ただしくなると思うが、協力をお願いしたい」と述べ、多くの参加を呼びかけた。

施設協では、教員相互の情報交換、若手教員の育成を目的とした夏期研修会を行ってきたが、以前から臨床検査学教育の学会を開催してはどうかといった声もあり、夏期研修会を発展的に解消し、学会に移行した。そのため、夏期研修会を行っていた8月に学会を行うことになった。

#### ○ラボ NW 領域で統一ブランド、自動分析装置を「cobas」に ロシュ・ダイアグノスティックス

ロシュ・ダイアグノスティックス (RDKK) は、ラボネットワーク領域それぞれに活用される自動分析装置を、今後全て新ブランド名「cobas」(コバス)に移行することに決め、1日からその第1弾として、血液ガス・電解質分析 OMNI シリーズを「cobas」ブランド製品として市場展開を開始した。

遺伝子検査から中央検査室、さらにはベッドサイド検査、あるいは検体検査受託企業向けにわたる製品群を統一ブランドのもとに包括し、今後も引き続き信頼性の高い価値を約束することを目的としている。

#### ○7月中旬に小型血球計数装置「LC-660」発売 堀場製作所

堀場製作所はこのほど、フランスの子会社 ABX 社と共同開発した小型血球計数装置「LC-660」の12月世界販売に先がけ、国内で7月中旬に先行発売すると発表した。

これまで小型血球計数装置は、国内では同社製を、日本以外では ABX 社製を供給していたが、同装置が ABX 社の後継機種となることから、経営資源の集中とブランド構築を進めるため小型血球装置製品を一元化、世界戦略製品として販売する。

同装置の主な特徴は、[1]10 $\mu$ Lの血液検体で即時に高精度の検査ができる、[2]大きなタッチパネルとガイダンス機能の充実で扱いやすさが向上、[3]ネットワーク対応など。

標準価格は国内420万円(海外は未定)。販売目標台数として発売開始後5年間で国内8000台、海外5万台を見込む。

#### ■MAN 6月21日号

#### ○インフルエンザ H5N1 に対応 G L 一 要観察例にも入院勧奨 厚生労働省

厚生労働省は5月25日に開かれた新型インフルエンザ専門家会議に、インフルエンザ<H5N1>に関するガイドラインを提示、概ね了承を得た。今月中に都道府県担当者会議等を開いて周知を図る。GLはH5N1に関して、患者の入院措置等を行えるよう感染症法の指定感染症としたことなどに伴い、都道府県等で実施すべき内容を盛り込んだもの。◇サーベイランス、◇診断・治療、◇医療施設等における感染対策、◇積極的疫学調査、◇検疫——の5項目が示された。

サーベイランスについては、[1]事前準備、[2]一般医療機関（感染症指定医療機関を含む）、[3]保健所、[4]地方衛生研究所、[5]都道府県、保健所を設置する市および特別区——のそれぞれに必要な対応を明示した。

特に一般医療機関に関しては、H5N1感染が合理的に疑われる場合、医師は患者・医療従事者への適切な感染管理を行うとともに、速やかに管轄保健所に連絡し、検査に必要な患者検体を確保するよう求めている。

診断・治療の面では、診療の実際として入退院の判断基準を示した。入院は、「要観察例」と「類似症及び確定例」に分けて提示した。

要観察例に対しては、原則として任意入院を勧奨するとした。しかし、やむをえず患者が入院に同意しない場合は、検査結果が出るまで自宅待機も可とするとした上で、サージカルマスクの着用、人混みを避けるなど、適切な感染対策の指導を求めている。

類似症及び確定例については、臨床症状の軽重にかかわらず、入院勧告の対象になるとし、原則として陰圧病室を有する感染症指定医療機関へ移送するとしている。

## ○要保健指導者”の抽出に焦点、健診の標準的項目を提示

厚生労働省

厚生労働省「標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会」の健診分科会がこのほど開かれ、事務局が「標準的な健診・保健指導プログラム」（暫定版）を提示し、[1]健診の内容、[2]保健指導対象者の選定と階層化の基準、[3]健診の精度管理、[4]健診データ等の電子化等——などの健診関連項目を中心に説明を行った。

健診内容について事務局は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の有病者・予備群を減少させるため、保健指導が必要な人を的確に抽出する項目がポイントになると強調。そのため質問項目も、「生活習慣病のリスク評価」「保健指導の階層化と健診結果を通知する際の情報提供内容決定」に用いることを念頭に設定するとしている。

具体的な健診項目は、基本的項目として◇身体計測（身長、体重、BMI、腹囲）、◇血圧測定、◇血液化学検査（中性脂肪、HDL コレステロール、LDL コレステロール）、◇肝機能検査、◇腎機能検査、◇血糖検査——などを、また詳細項目として◇心電図検査、◇眼底検査、◇検尿、◇貧血検査——などを挙げた。

保健指導対象者の選定では、内臓脂肪型肥満を伴う場合と伴わない場合に分けて考

え方を示した。内臓脂肪型肥満を伴う場合は、内臓脂肪蓄積の程度を判定するために腹囲を用いるとともに、メタボリックシンドロームの判定基準となる高血糖、高血圧等のリスクを評価する項目を用いている。

また、腹囲計測によって内臓脂肪型肥満と判定されない場合でも、高血糖、高血圧等のリスクを評価する項目を基本健診として実施し、内臓脂肪型肥満を伴わない糖尿病、高血圧症などの判定を可能にしようという考え方である。

## ○癌細胞検出でシスメックスと共同研究

### オンコリスバイオフィーマ

バイオベンチャーのオンコリスバイオフィーマは、シスメックスと癌の早期発見や治療効果判定などに用いる体外診断用医薬品の研究に関する契約を締結し、オンコリスが固形癌の体外診断用医薬品を目指し研究してきた「テロメスキャン」の実用化に向け共同研究を進めることになった。

テロメスキャンは、クラゲの緑色蛍光蛋白（GFP）遺伝子を組み込んだアデノウイルスベクター。ウイルスが癌細胞で特異的に増加、GFP を産生することで、癌細胞の有無が確認できるという。

研究では、1年かけて複数の固形癌を対象に予備的検討を行う。テロメスキャンの技術情報を提供し、シスメックスがテロメスキャンを使用した癌細胞検出の検討試験を実施する。実用化のメドは未定だが、「契約期間内でも、体外診断用医薬品としての実現可能性が望めると判断された場合は共同開発契約を締結し、本格的な開発に着手する」としている。

## ○機能性食品ビジネスに参入

### アークレイ

アークレイは、メタボリックシンドロームとアンチエイジングを対象とした機能性食品素材ビジネスに参入した。

メタボリックシンドロームは、有病者と予備軍を合わせると2700万人を超えるとされており、厚生労働省も総合戦略事業を実施するなど注目が高まっている。また、アンチエイジングは、「抗加齢」ともいわれ、健康長寿を目指す研究が医学、薬学、栄養学などの分野で進められている。同社では、沖縄県産の果実シイクワシャーから抽出した抗メタボリックシンドローム食品素材「シイクワシャーエキスP」と、ハーブから抽出したアンチエイジング食品素材「植物エキスAG-P」の開発に取り組み、新たな事業を展開する。今後は、自社セミナーや展示会、学会への出展などを通して積極的に新規ビジネスを進展させる。



同社は、自社開発の機能性食品において、血糖値が気になる方に適する旨で厚生労働省より特定保健用食品（トクホ）で7品目の表示許可を取得（2006年2月27日現在）しており、血糖値のトクホNo.1企業となった。トクホで培った経験と実績を生かし、「エビデンスに注力した食品素材の供給に努めていきたい」としている。

---

=====

JACLaP WIRE, No. 96 (2006年7月20日発行)

☆発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

☆編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

☆本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

☆日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclap.org

☆日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

☆JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

---

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添えて  
uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*